

第1回
阿賀野市「道の駅」
整備検討委員会

平成28年11月22日（火）
〔於 阿賀野市役所（403会議室）〕

阿賀野市

本日の説明内容

1. 阿賀野市「道の駅」整備検討委員会設置要綱について (P3~5)
2. 阿賀野市の現状について (P6~P12)
3. 「道の駅」の全国・県内の状況について (P13~P37)
4. 阿賀野市「道の駅」の整備について (P38~P52)
5. スケジュールについて (P53~P54)

1. 阿賀野市「道の駅」 整備検討委員会設置要綱 について

■委員会の検討事項

◎基本構想

平成28年度策定予定

◎整備計画

平成29年度以降策定予定

■委員会の検討事項

【基本構想】

- ① 整備方針
(「道の駅」の整備目的や役割、整備コンセプト)
- ② 整備規模
(施設規模、敷地規模、エリア・区域)
- ③ ゾーニングイメージ
- ④ その他必要な事項

2. 阿賀野市の現状について

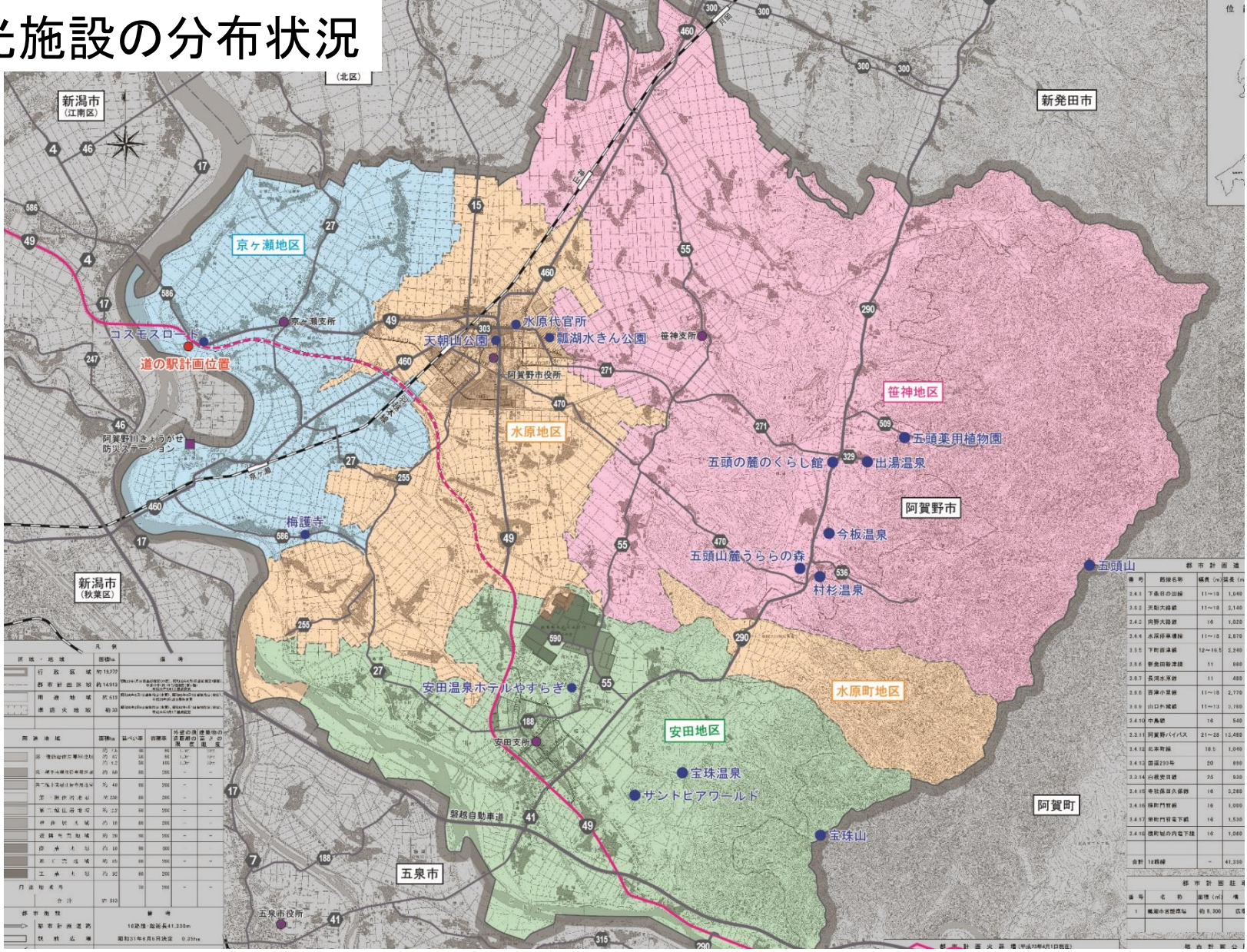
①現状

■阿賀野市の位置、地勢



①現状

■観光施設の分布状況



区域・地域	面積(km ²)	温泉
行政区域	約18,779	
都市計画区域	約14,619	
開発地域	約6,518	
温泉地域	約303	

温泉名	源泉数	湯量(m ³ /日)	源泉の深さ(m)	源泉の温度(℃)
安田温泉	1	100	100	70
宝珠温泉	1	100	100	70
サントピアワールド	1	100	100	70
出湯温泉	1	100	100	70
今板温泉	1	100	100	70
村杉温泉	1	100	100	70
五頭山麓うらの森	1	100	100	70
五頭の麓のくらし館	1	100	100	70
梅護寺	1	100	100	70
天朝山公園	1	100	100	70
瓢湖水きん公園	1	100	100	70
京ヶ瀬公園	1	100	100	70
五頭山	1	100	100	70
宝珠山	1	100	100	70
合計	11	1,100	1,100	70

温泉名	源泉数	湯量(m ³ /日)	源泉の深さ(m)	源泉の温度(℃)
下高目の出湯	11~18	1,840		
天朝山麓	11~18	2,140		
出湯温泉	16	1,820		
五頭山麓	11~18	2,240		
出湯温泉	11	840		
今板温泉	11	480		
出湯温泉	11~18	2,770		
山口外城	11~13	3,780		
中城	16	540		
阿賀野/イハス	21~28	12,480		
北城	18.5	1,840		
豊田23号	20	840		
白根温泉	35	930		
中城温泉	16	2,880		
中城温泉	19	1,900		
中城温泉	16	1,530		
中城温泉	16	1,880		
合計	11	41,330		

①現状

■主要製造品・主要農産物

主要製造品 瓦、陶器、石材、半導体部品、
乳製品、めん類、地ビール、米菓、日本酒、もち、豆腐

主要農産物 米、牛乳、いちご、柿、大豆、里芋、舞茸、椎茸、そば、ブ
ルーベリー、カリフラワー、切花、球根



安田瓦



薬師石(天然ラジウム石)



安田ヨーグルト



地ビール



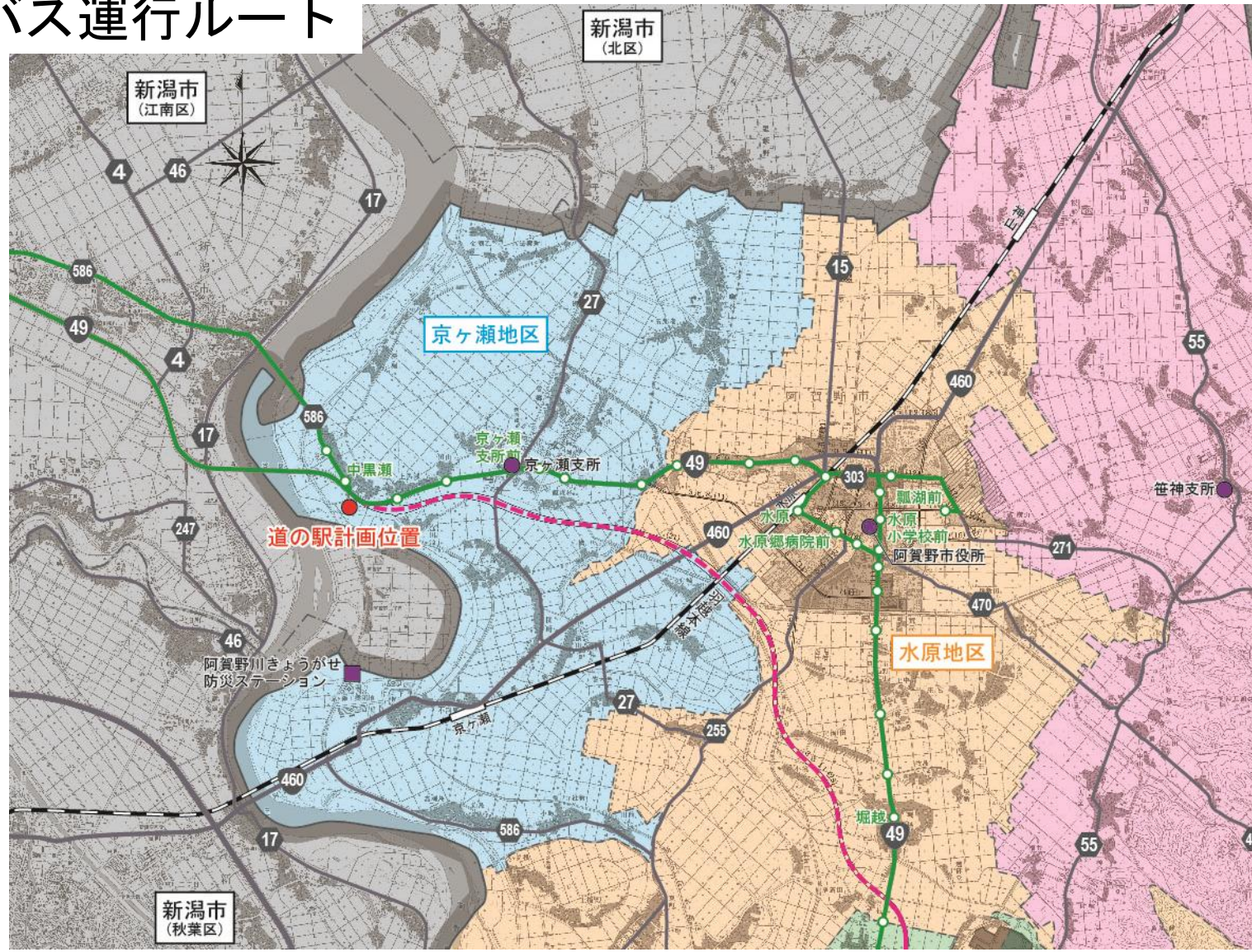
日本酒



川上とうふ

①現状

■路線バス運行ルート



② 課題

項目	課題
農業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 「道の駅」に農産物直売品所の整備を行い、地産地消と消費者との交流の推進
観光の振興	<ul style="list-style-type: none"> 交流人口の拡大と観光客の増加 観光面における魅力発信の強化
公共交通の充実	<ul style="list-style-type: none"> バスの運行を充実及び、市民が利用しやすい公共交通体系づくり 公共交通機関による市外への移動の利便性向上
土地の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> 産業、観光の活性化及び都市農村との交流等の利点を活かした防災拠点の形成 市民の憩いの場としての公園の整備推進 (健康づくり, 子育て, 観光等の多面的活用が可能な公園)
防災体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 大規模災害に備えた広域的な支援体制の整備 (災害対応や被災者支援に係る応援体制の充実等)

資料：阿賀野市総合計画(基本計画：H28～H32)

3. 「道の駅」の全国・県内の状況について

① 「道の駅」の目的と機能

■ 「道の駅」の目的

- ・ 道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供
- ・ 地域の振興に寄与

■ 「道の駅」が有する機能

○休憩機能

- ・ 24時間、無料で利用できる駐車場・トイレを提供

○情報発信機能

- ・ 道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供

○にぎわい・交流機能 (地域連携機能)

- ・ 文化教養施設、観光レクリエーション施設などで地域との交流を促進

〈基本コンセプト〉

地域とともにつくる個性豊かなにぎわいの場

※災害時は防災機能を発現

- ・ 人や物資、情報等の中継場所として、幅広く活用

②道の駅の登録要件

○休憩機能

- ・ 駐車場(利用者が無料で24時間利用できる十分な容量をもった駐車場)
- ・ トイレ(利用者が24時間利用できる清潔なトイレ、障がい者用も設置)

○情報発信機能

- ・ 道路及び地域に関する情報を提供(道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等)

○地域連携機能

- ・ 文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設

○設置者

- ・ 市町村又は市町村に代わり得る公的な団体

○その他配慮事項

- ・ 施設及び施設間を結ぶ主要経路のバリアフリー化

③ 「道の駅」の整備手法

○一体型

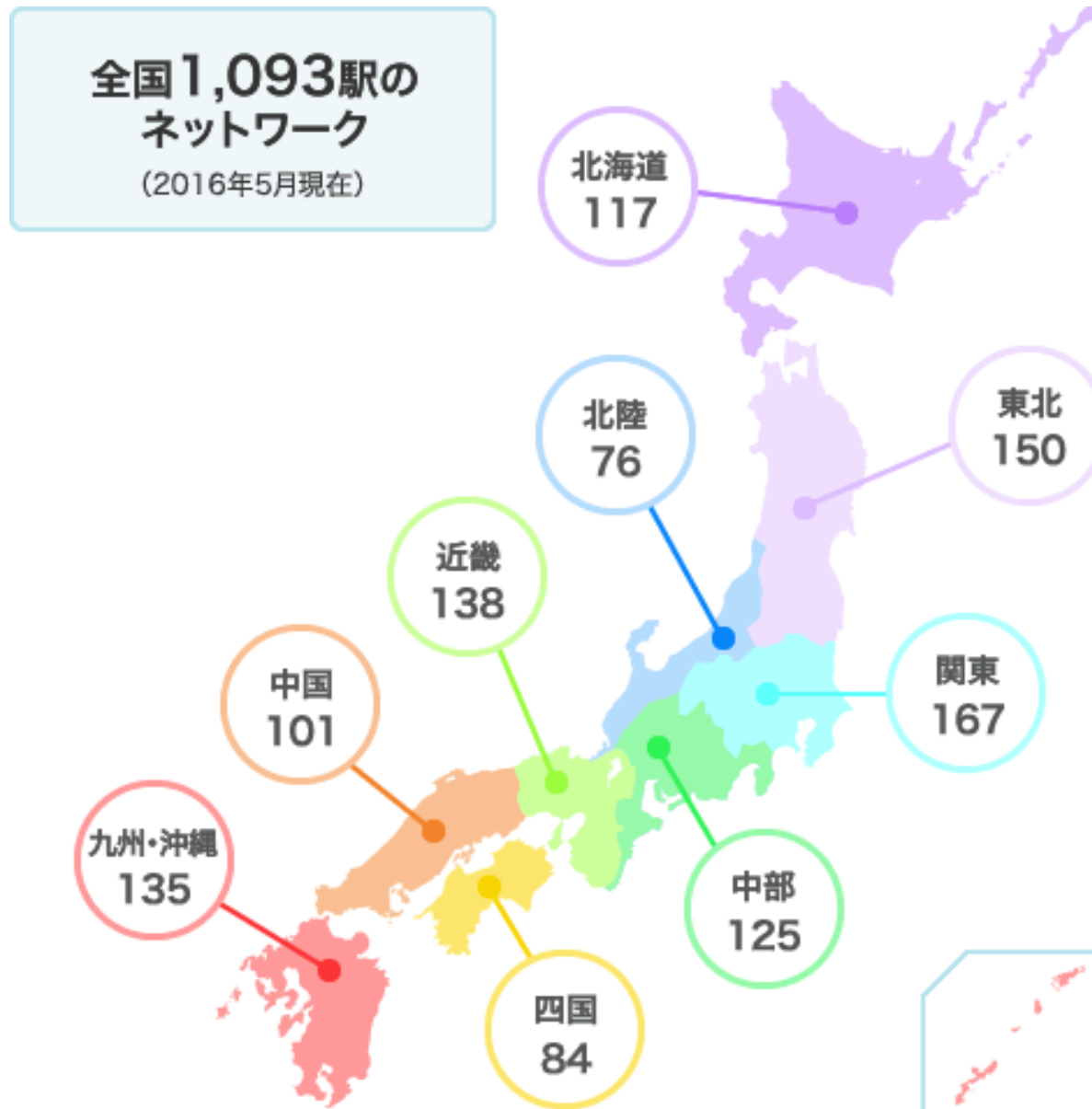
- ・ 道路管理者(国、県)と市町村で分担して施設を整備する手法

例えば、道路管理者は道路情報提供施設や駐車場、トイレなどを整備
市町村は地域振興施設、第2駐車場などを整備

○単独型

- ・ 市町村単独で施設の整備を行う手法

④ 「道の駅」の登録状況



出典：全国「道の駅」連絡会ホームページより

⑤ 「道の駅」の効果

<安全で快適な道路交通環境の提供>

①道路利用者への交通安全に寄与

【24時間利用可能なトイレ、休憩場所、道路情報提供施設】

- 休憩場所の提供
- ドライブに必要な道路情報の提供

<地域振興への寄与>

②観光拡大効果

【地域振興施設・観光情報提供施設】

- 観光拠点情報の提供
- スタンプラリー等のイベント実施
- 地域の特産品等の紹介・販売

③地域の雇用、就業拡大効果

- 農産品等の生産拡大
- 農産品等の出荷・販売場所
- レストラン等での雇用の場

④地域コミュニティの拡大効果

- 地域の交流の場
- 農産品等の生産者間の交流の場

<防災拠点機能>

⑤災害対策の拠点

【防災設備】

- 自衛隊等の災害対策の拠点
- 救援物資の中継場所
- 臨時避難所として利用
- 緊急輸送路、災害状況の情報提供

⑥ 「道の駅」の新たな展開

- 「道の駅」を、好循環の地方拡大の強力なツール、地方創生を進めるための「小さな拠点」と位置づけ、各省庁と連携して、特に優れた取組を選定し、重点支援する取組を実施
- 有識者委員会を経て、重点道の駅を平成26年に35箇所、平成27年に38箇所を選定

「道の駅」の機能別タイプ

地域外から活力を呼ぶ ゲートウェイ型

- ① 地域の観光総合窓口機能
地域全体の観光案内、宿泊予約窓口 等
- ② インバウンド観光の促進
外国人案内所、免税店、無料公衆無線LAN、海外対応ATM 等
- ③ 地方移住等の促進
地方移住のワンストップ窓口
ふるさと納税の情報提供 等

「道の駅」が活力を呼び、雇用を創出、地域の好循環へ



地域の元気を創る 地域センター型

- ④ 地域の産業振興
地方特産品のブランド化、6次産業化 等
- ⑤ 地域福祉の向上
診療所、役場機能、高齢者住宅 等
- ⑥ 高度な防災機能
広域支援の後方支援拠点、防災教育 等

全国モデル「道の駅」
国土交通大臣選定
今回選定 6 箇所

地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの

全国的なモデルとして成果を広く周知するとともに、さらなる機能発揮を重点支援

重点「道の駅」
国土交通大臣選定
今回選定 73 箇所

地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの

取組を広く周知するとともに、取組の実現に向けて、関係機関が連携し、重点支援

重点「道の駅」候補
地方整備局長等選定
今回選定 49 箇所

地域活性化の拠点となる企画の具体化に向け、地域での意欲的な取組が期待できるもの

関係機関が連携し、企画検討等を支援

＜支援にあたっては関係省庁が連携、各種制度が活用可能＞

国土交通省	社会資本整備総合交付金	
	集落活性化推進事業	
道路、観光、国土計画、公共交通、河川、港湾、都市 等が連携	河川環境整備事業	
	地域観光環境改善事業	
	地域公共交通確保維持改善事業	
	河川環境整備事業	
	みなのオアシス制度	等
総務省	地域経済循環創造事業交付金	等
農林水産省	農山漁村活性化プロジェクト支援交付金	
	6次産業化ネットワーク活動交付金	
	都市農村共生・対流総合対策交付金	等
経済産業省	次世代自動車充電インフラ整備促進事業	
	ふるさと名物応援事業	
	地域エネルギー供給拠点整備事業	等
内閣府	地域住民生活等緊急支援のための交付金（地方創生先行型）	（平成26年度補正のみ）
	地域再生戦略交付金	

⑦地域の創意工夫の場となる「道の駅」

○ 「道の駅」は

主に市町村が設置し、国土交通省が登録する道路休憩施設

駐車場やトイレのほか、情報提供・休憩施設や地域振興施設を備え、地域の情報発信や交流の場として活用されている。

(施設イメージ)



制度創設 平成5年

「道の駅」登録数は、全国 **1,093駅**

○ 地域の創意工夫で、「道の駅」を地域活性化の拠点とする取組が進展

● 観光で人を呼ぶ

「農業プラス観光」で人口
3700人の村に年間120万人
来訪。リピート率は約7割。
(群馬県川場村「川場田園プラザ」)



● 移住で人を呼ぶ

毎年100名以上が「道の駅」
へ移住相談。これまで
17世帯34名が移住
(熊本県小国町「小国」)



● 特産品で盛り上げる ～6次産業化で雇用と経済効果～

特産品を活かした加工食品の開発販
売等、約60名の雇用を創出
(愛媛県内子町「内子フレッシュパーク」)



● 「小さな拠点」をつくる

診療所や役場機能等、生活に必要な
機能をワンストップで提供
(京都府南丹市「美山ふれあい広場」)



● 防災力を強化する

広域防災拠点として高度な防災機能
を発揮
(岩手県遠野市「遠野風の丘」)



⑧ 全国モデルや重点道の駅に選定される箇所

選定された全国モデル「道の駅」等の取組

○ 全国から、地域活性化の拠点として模範となる**全国モデル「道の駅」**として、**6箇所**を選定



主な機能	都道府県	市町村	駅名	主な特長
観光総合	群馬県	川場村	川場田園プラザ	「農業プラス観光」で人口約3,700人の村に年間約120万人が来訪。リピート率は7割。
	栃木県	茂木町	もてぎ	真岡鉄道のSLやサーキットなど地域の魅力へのアクセスポイントとしてのゲートウェイ機能。
	千葉県	南房総市	とみうら	ピワ狩り体験企画など、地域の観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行会社へ販売。観光バス3,000台誘致。
産業振興	山口県	萩市	萩しーまーと	隣接する漁港から新鮮な海産物が直接店頭並び、地産地消にも貢献。地元加工業者と高付加価値商品を開発し、地域に貢献。
	愛媛県	内子町	内子フレッシュパークからり	生産者自らが運営に携わり、特産品を活かした加工食品の開発販売等、約60名の雇用を創出。
防災	岩手県	遠野市	遠野風の丘	東日本大震災時は、後方支援拠点として機能。広域防災拠点として高度な防災機能を分担。

○ 地域活性化の拠点として優れた企画を持つ**重点「道の駅」**として、**73箇所**を選定

<重点「道の駅」の例>



高田松原(岩手県陸前高田市)

ゲートウェイ型

- 震災で被災した「道の駅」を遺構として再生。三陸沿岸・復興のゲートウェイとして震災の教訓を国内・海外へ発信。



震災の記憶を留める「道の駅」を遺構とし、地域のゲートウェイに



伊豆道の駅ネットワーク(静岡県伊豆地域)

ゲートウェイ型

- 伊豆半島の8つの駅が連携して外国人観光客に対応。伊豆半島のインバウンド周遊観光を促進。



つどいの郷むつざわ(千葉県睦沢町)

地域センター型

- 一日9千歩 歩くまちづくり、スマートウェルネスタウンの中核として健康支援型「道の駅」を構築。

■評価の高い「道の駅」

◆全国モデル「道の駅」

地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められるもの

◆重点「道の駅」

地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組が期待できるもの

■産業振興（地域の特産品を活かした産業振興「道の駅」）

■地域福祉

（地域の高齢化等に対応した住民サービス〈地域福祉〉を提供する「道の駅」）

■交通結節点

（公共交通の結節点として地域住民に交通サービスを提供する「道の駅」）

■防災（災害時に高度な防災機能を発揮する「道の駅」）

■観光総合窓口（地域の観光総合窓口となる「道の駅」）

■インバウンド観光（インバウンド観光を促進する「道の駅」）

■地方移住等促進（地方移住・ふるさと納税促進に貢献する「道の駅」）

■交流・連携（地域間の交流・連携を促進する「道の駅」）

■評価の高い「道の駅」の取組内容①

■産業振興（地域の特産品を活かした産業振興「道の駅」）

例：道の駅川場田園プラザ[群馬県川場村]

- ・ 朝取り野菜・ブルーベリーや乳製品などの地域資源の販売により、消費促進、雇用を創出

道の駅しもにた[群馬県下仁田町]

- ・ 伝統的特産物「下仁田ネギ」の農業生産と加工販売やメニュー開発を行い6次産業化と食文化の継承を推進

道の駅あおき[長野県青木村]

- ・ 青木村のみで栽培する新品種のそばを道の駅で提供



ブルーベリーソフト
(川場田園プラザ)



下仁田ネギ
(しもにた)



「タチアカネ」を使用したそば
(あおき)

■評価の高い「道の駅」の取組内容②

■地域福祉

(地域の高齢化等に対応した住民サービス[地域福祉]を提供する「道の駅」)

例:道の駅瀬替えの郷せんだ[十日町市]

- ・夏は農業実習生の受け入れ拠点に、冬は高齢者の共同生活の場として活用し、担い手確保と生活支援を同時に担う

道の駅信州新野千石平[長野県阿南町]

- ・高齢者への宅配サービスを通じた買物支援や安否確認、町民バスと連携した中山間地の生活支援



移動販売車による
買い物支援
(信州新野千石平)



受け入れ拠点
せんだ元気ハウス
(瀬替えの郷せんだ)

■交通結節点

(公共交通の結節点として地域住民に交通サービスを提供する「道の駅」)

例:道の駅川場田園プラザ[群馬県川場村]

- ・スキー場へのシャトルバス等を受け入れ、村内交通のターミナルの機能をもつ

■評価の高い「道の駅」の取組内容③

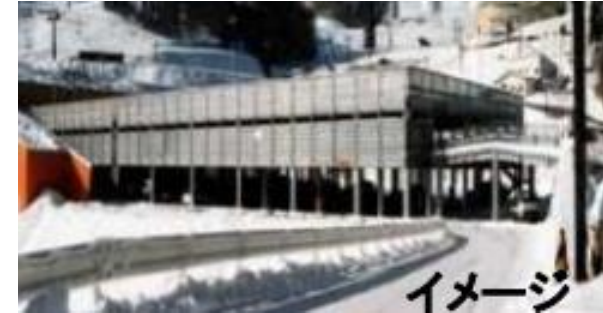
■防災（災害時に高度な防災機能を発揮する「道の駅」）

例：道の駅あらい[妙高市]

- ・ 降雪の災害時に駐車場の一部立体化による臨時避難場所、物資保管場所として活用、メガソーラー発電所と連携しEV車による電力供給

道の駅あおき[長野県青木村]

- ・ 災害時の自衛隊の参集、蓄電池、ガス備蓄タンクの備え、ヘリポート等の整備など防災拠点の機能を強化



駐車場の立体化
(あらい)



観光案内
(川場田園プラザ)

■観光総合窓口（地域の観光総合窓口となる「道の駅」）

例：道の駅川場田園プラザ[群馬県川場村]

- ・ 観光協会スタッフがビジターセンターに常駐し、宿泊、体験施設など地域全体の観光案内

■評価の高い「道の駅」の取組内容④

■インバウンド観光（インバウンド観光を促進する「道の駅」）

例：道の駅あらい[妙高市]

- ・外国人案内所の機能拡充、観光客への防災情報提供（外国人対応）

■地方移住等促進（地方移住・ふるさと納税促進に貢献する「道の駅」）

例：道の駅上野[群馬県上野村]

- ・移住・雇用に関する情報発信や相談窓口の設置

■交流・連携（地域間の交流・連携を促進する「道の駅」）

例：道の駅あおき[長野県青木村]

- ・年間2148人の合宿、体験学習を受け入れており、外国人の受け入れも本格化

道の駅川場田園プラザ[群馬県川場村]

- ・果物狩りや陶芸などの体験やイベント等により、村民と来訪者の交流の機会を提供

4. 阿賀野市「道の駅」の 整備について

① 整備目的

■ 交通の要衝

- 政令指定都市である新潟市に隣接
- 国道49号の阿賀野バイパスが整備
- 福島方面と新潟港・新潟空港、県北方面の分岐点

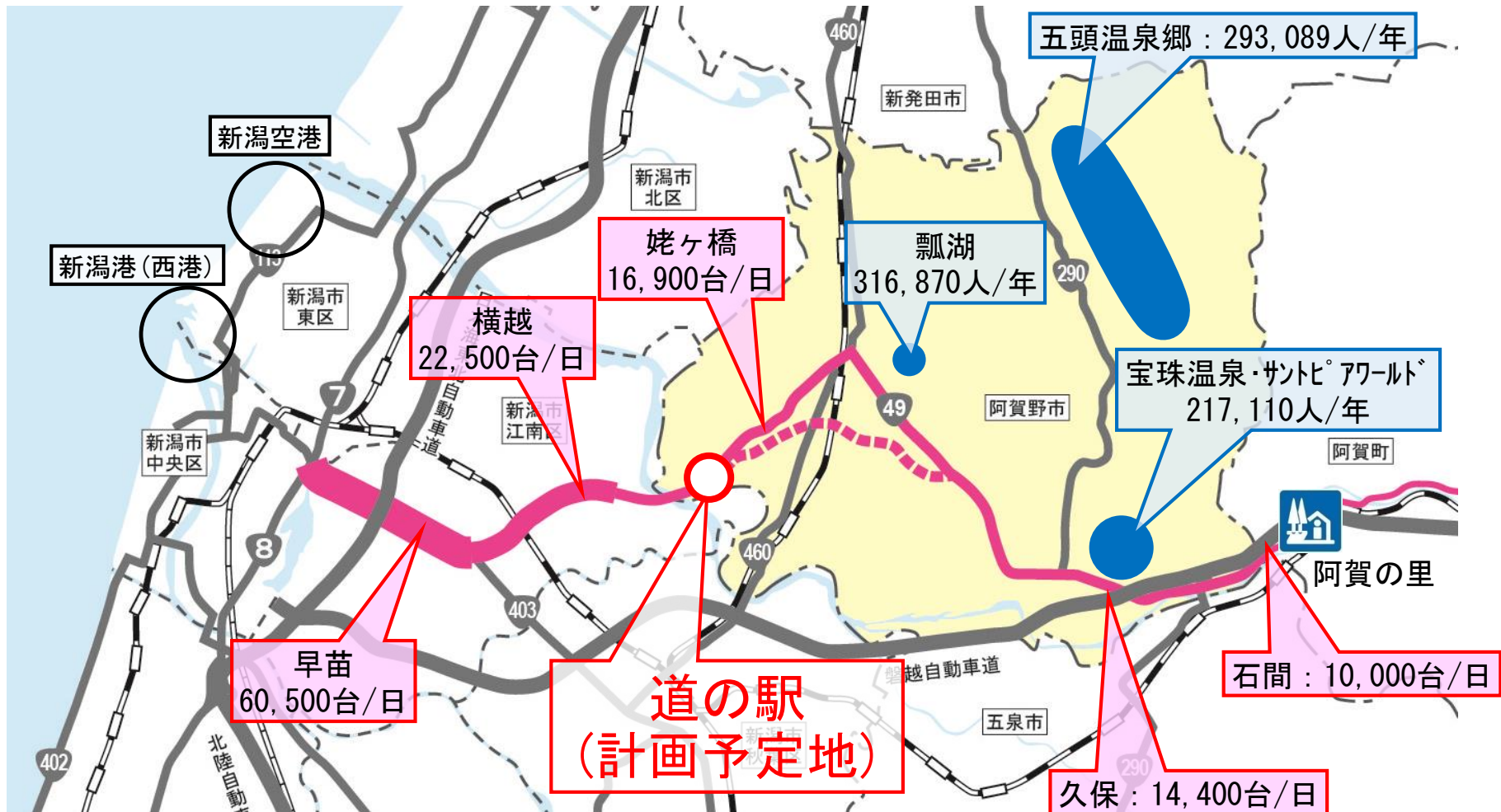
■ 整備する機能

- 基本機能
 - 休憩機能
 - 情報発信機能
 - にぎわい・交流機能
- 防災機能

- 観光資源や特産物を活かし、阿賀野市の魅力を様々な人に伝え、地域活性化や防災につながる拠点（地方創生の拠点・防災拠点）として活用することを目的とする。

②整備位置

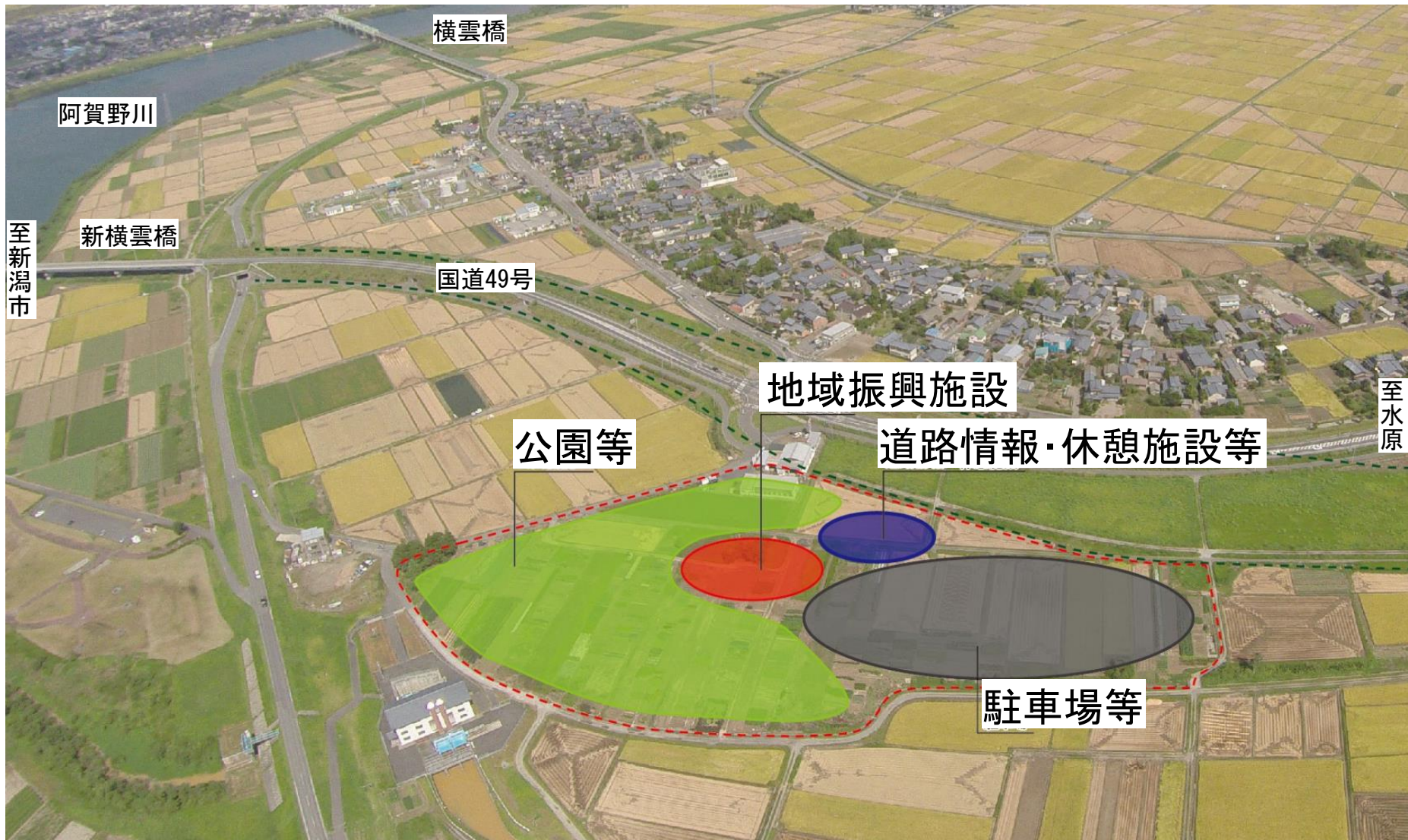
交通状況と観光地



資料：H22道路交通センサス
H26新潟県観光入込客統計など

③整備規模

至新潟市



④整備する機能

機能	内容
休憩機能	<ul style="list-style-type: none">・ 国道49号の道路利用者の休憩施設
情報発信機能	<ul style="list-style-type: none">・ 国道49号や沿線地域の道路・交通情報の提供・ 阿賀野市の特産物や観光資源などの地域の情報提供
にぎわい・交流機能 (地域連携機能)	<ul style="list-style-type: none">・ 阿賀野市に人を呼び込み、地域に仕事を生み出す「地方創生」の拠点・ 若い人たちをはじめ、誰もが利用できる多目的広場
防災機能	<ul style="list-style-type: none">・ 災害時における交通アクセスの利点を活かした防災拠点

■委員会の検討事項（再掲）

【基本構想】

- ① 整備方針
（「道の駅」の整備目的や役割、整備コンセプト）
- ② 整備規模
（施設規模、敷地規模、エリア・区域）
- ③ ゾーニングイメージ
- ④ その他必要な事項

■基本構想

どのような「道の駅」が望ましいのか？

重点的に議論をお願いしたい。

「道の駅」整備の方向性

- 市民と来訪者に愛され、多くの人が集ういやしの空間
- 地域資源の活用と交流による地方創生の拠点
- 災害時の防災拠点

5. スケジュールについて

平成28年度

基本構想

第1回整備検討委員会
委員会組織
(11月22日)

第2回整備検討委員会
「道の駅」基本構想
(素案)策定
(1月頃)

パブリックコメント
(2月頃)

第3回整備検討委員会
「道の駅」基本構想
策定
(29年春)

平成29年度～

整備計画

第4回整備検討委員会